

時の動き

ベネズエラ・ボリバル革命 コミュニオン

本誌編集長 高原 敏朗

ベネズエラ・マドゥロ大統領再選
皆さんは、ベネズエラという国家を
ご存じでしょうか。南米のカリブ海に



ベネズエラ・マドゥロ大統領

接するキューバ社会主義国と密接な関係にある国家ですが1998年、チャベス大統領が誕生すると「21世紀の社会主義」の挑戦を打ちだし、中南米からアメリカ帝国主義の搾取と収奪から解放するために、革命闘争を闘い抜いている国家だということお分かりでしょう。しかし、今年の5月20日大統領選挙で亡きチャベス後継のマドゥロ大統領が2期目の再選を果たすと、「非民主主義のマドゥロ独裁政権は国民生活を危うくしている」などと欧米・日本のマスコミから嘘の報道が垂れ流されました。

なぜ、欧米、日本はベネズエラ・

ボリバル共和国を敵視するのでしょうか。資本主義から独自の社会主義への道を確実に実践しているからです。その基本組織がコミュニオンです。それはどういうものなのでしょうか。

この疑問に答える「地域に根ざした参加型民主主義コミュニオンとは何か」について、ベネズエラ大使館参事官のカレンさんの講演会に6月3日、学ぶことが出来ました。このコミュニオンとは、住民自身が決定し、執行する、住民の独立した参加型の直接民主主義の自治機関ということです。ここで重要なのは、民衆自身が団結すれば、国民一人ひとりが人間らしく働き続け生き



続けることができるのだという認識が広まっており、これが彼らには脅威なのです。

現在の「コミュニティ」とは

このベネズエラのコミュニティは、1999年制定された憲法が約束した直接的・参加型民主主義のボリバル革命と称され、目的意識的に計画、実践され、現在では、2183のコミュニティと4万7297の小単位のコンセホ・コムナル（住民評議会）が形成される

に至っています。この草の根・コンセホ・コムナルの構成はどうなっているのでしょうか。それは地域住民が自主的に地理的範囲を決めて構成します。都市で150〜400の家族、農村で20家族、先住民地域では10家族を目安に構成します。次にその構造です。

構造は、任期を2年と定め、住民による選挙で選ばれ、次の委員会が組織されます。①住民集会（最高意思決定機関）、15歳以上の住民が参加可能、②執行委員会、③財政委員会、④社会監視委員会（腐敗防止）、⑤調整委員会（コミュニティ内の調整、またこれ以外にも必要に応じ委員会を作成しています。これを束ねる役目がコミュニティです。コンセホ・コムナルの集合体がコミュニティです。経済的自立だけでなく、雇用も産みだし、独自のコミュニ

ン放送局、コミュニティ通貨、学校、住宅、道路のメンテナンスなど多彩な日常生活を満たす源になって全国に張り巡らされてきました。

課題は何か

しかし、既存の資本主義的生産関係に対抗しながらですから困難は絶えません。いわゆるブルジョア特権階級の商品隠匿や投機などによって、商品不足が意図的に作られインフレ、サボタージュなど社会的混乱を生じさせています。これにはCLAP（地域生産供給委員会）などで住民への生活必需品医療、教育が無償で供給されているか調査、サポートし対抗しています。

どんな困難にも参加型民主主義は、必ず、勝利する。これが結論でした。参事官の4時間にわたる講演で確信をつかむことができました。ベネズエラ・ボリバル共和国に栄あれ!!

（たかはら としろう）